

緊急地震速報の利用の心得について(案)

検討会事務局

緊急地震速報を伝達された住民等が、適切な危険回避行動をとるためには、緊急地震速報そのものに対する理解を増進するとともに、情報を入手したとき取るべき行動についての「心得」を示すことが重要である。

このため、住民や施設管理者等が緊急地震速報を受信するさまざまな場面を想定し、家庭で緊急地震速報を受信したとき（テレビ・ラジオ、防災行政無線等による受信）、多数の集まる施設（大型商業施設、映画館、競技場、駅など）で緊急地震速報を受信したとき、屋外（路上、地下街など）で緊急地震速報を受信したとき、自動車を運転中に緊急地震速報を受信したとき、のそれぞれについて「心得」を作成する。

一般利用者向け緊急地震速報の利用の心得

1 家庭での心得

- ・あわてずに、まず身の安全を確保する（大きな家具からは離れ、丈夫な机の下などに隠れる。あわてて外へ飛び出さない）
- ・余裕があれば火の始末、扉を開けて避難路を確保する
- ・揺れがおさまったら、落ち着いてテレビ・ラジオなどから正確な情報を入手する
- ・津波の被害のおそれがある地域では、揺れがおさまったら津波警報発表の前でも直ちに高台（津波避難場所）へ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）

2 多数の集まる施設での心得

（1）施設管理者の心得

施設利用者等がパニックを起こさないように、落ち着いた行動を呼びかける。

また、地震発生時の誘導に準拠し、利用者等の適切な誘導を行うことができるよう、対応マニュアルを作成するとともに、店員等の教育・訓練を行う。

（放送の例）

- ・（報知音）ただいま地震が発生しましたが、当館は耐震化されていますので、落ち着いて係員の指示に従ってください。
- ・（報知音）ただいま地震が発生しました。念のため吊り下げ物の下や倒れそうなもののそばから離れて、揺れがおさまるのをお待ちください。

（2）施設利用者の心得

- ・あわてずに、まず身の安全を確保する（あわてて出口・階段などに殺到しない。吊り下がっている照明などの下からは退避する）
- ・揺れがおさまったら、落ち着いて正確な情報を入手し、係員の指示に従って行動する

- ・津波の被害のおそれがある地域では、揺れがおさまったら係員などの指示に従い津波警報発表の前でも直ちに津波避難場所へ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）

3 屋外での心得

- ・あわてずに、まず身の安全を確保する（ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意し、これらのそばから離れる。ビルからの壁、看板、割れたガラスの落下の備え、ビルのそばから離れる（離れることが困難なときはビルの下に避難））
- ・丈夫なビルのそばであればビルの中に避難
- ・揺れがおさまったら、落ち着いてテレビ・ラジオなどから正確な情報を入手する
- ・津波の被害のおそれがある地域では、揺れがおさまったら津波警報発表の前でも直ちに高台（津波避難場所）へ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）

4 自動車を運転中の心得

- ・急ブレーキは踏まずに、ゆっくりスピードを落とし大きな揺れを感じたらすぐに止まれるように安全を確保（後続の車が情報を聞いていないおそれがあることに注意）
- ・余裕があればハザードランプを点灯
- ・テレビ・ラジオなどから引き続き正確な情報を入手する
- ・海岸沿いにいるときは、揺れがおさまったら津波警報発表の前でも直ちに津波避難場所や高台など安全なところへ避難する（津波の心配がないという情報を受けたら安心）